

政治家としての活動



愛媛県での選挙運動 米田と支援者

1942（昭和 17）年、軍部に協力的な政治家による翼賛体制強化をねらう衆議院議員選挙が行われようとしていました。選挙に政府が介入することは公選精神に反すると考えた米田は、「翼賛政治体制協議会」の推薦を受けない「非推薦」候補として、自ら議員をめざします。愛媛で立候補した米田は、立候補者 5 名中三位で当選を果たしました。

その後米田は、戦後第一回となる 1946（昭和 21）年の衆議院議員選挙で破れますが、翌年、新憲法下での最初の選挙で当選し、主に文教委員として活動しました。

神奈川大学の学部、学科の増設をはかりその充実を目指す一方、1955（昭和 30）年の総選挙では神奈川県でトップ当選を果たします。この任期中、岸信介内閣の厚生政務次官として活躍、次々回の総選挙でも当選し自民党政調会社会部長などで多忙を極めました。

1963（昭和 38）年、体調が悪化した米田は政界を引退し大学の経営に専念することになります。



演説する米田（1955年）